

2019年(平成31年)度～2022年(年)度 学校教育総合プランに沿った重点とする取組と評価

【逗子市立逗子中学校】

教育環境の充実		4年間を見据えた取組内容		教育情報化の推進			
2019年(平成31年)度		2020年(年)度		2021年(年)度		2022年(年)度	
期首入力	学校の 実態と課 題	校務支援システムやグループウェアなどのシステムは導入されているが、働き方改革を推進する上では、十分な利用が進んでいるとはいえない状況である。グループウェアを利用した、打ち合わせの短縮や校務支援システムを利用しての帳票や評価などシステムを十分使っていくことが課題である。	今年度は一つのスキルアップだけだったが、次年度は前に学んだこと以外もできるようにしてもらいたい。	0	0		
	年度目 標	教育情報化をさらにすすめ、学校の情報を積極的に発信することを進めていく。					
	取組計 画	・グループウェアをさらに利用していく。 ・ホームページは全員がアップロードできるようにする。 ・アンケートは電子化をすすめ、アンケートを採った直後に集計できるようにする。					
期末入力	実践した 内容	学校事務チームをたちあげ、アンケート集計 ホームページ メール配信の3つについてどれかをできるようなスキルを身につけるよう研修会を実施した。行事等の反響やふりかえりはグループウェアを積極的に利用し、担当者が入力することをやめ、コピーとはりつけですませるようにした。保護者などへはQRコードを利用したものを利用して、保護者等からの意見の集約をするようにした。					
	達成度 評価	A					
	評価の 根拠	行事等のふりかえりについては紙で配付することがなくなってきている。アンケート集計もSQSのシステムを利用することで、簡単に集計までできるようになることができた。また、ホームページも担当者が伝達講習を実施することができている。					
	学校の 実態を踏 まえた課 題	今年度は一つのスキルアップだけだったが、次年度は前に学んだこと以外もできるようにしてもらいたい。					

2019年(平成31年)度～2022年(年)度 学校教育総合プランに沿った重点とする取組と評価

【逗子市立逗子中学校】

柱Ⅰ	学習指導の充実		4年間を見据えた取組内容		授業改善の推進	
	2019年(平成31年)度		2020年(年)度		2021年(年)度	
期首入力	学校の 実態と課 題	新しい学習指導要領が発表され、移行措置も始まっている。この中で、「主体的対話的で深い学び」の実現にはなかなか近づいてはいない。先生方が研修や研究を深め、新しい学習指導要領の理念に合った授業を展開できるようにすることが課題である。	新しい学習指導要領を見据えた年間指導計画や学びのプランを作成する。校務支援システムをさらに利用していく。道徳については全員で授業を行う体制を続けていく	0	0	
	年度目 標	授業改善の推進				
	取組計 画	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画 学びのプランにより生徒の学びにくさを解消する。 授業力の向上により、教師の成長に努める。 発表活動を取り入れた授業を実践する。 指導事項・指導内容に応じた適切な教材の開発や指導法の改善に努める。 教科ごと「学びにくさ」の改善に適切な課題を利用する。 教科会の充実を図る。 道徳の評価について研修を深め取り組む 				
期末入力	実践した 内容	年間指導計画 学びのプランを作成することができた。校務支援システムを利用して、学習評価をおこない、より精度の高い評価を出すことができるよう研修会を実施した。発表活動を取り入れた授業を1単元に1回以上おこなう。道徳は全員が授業を実施して評価方法について考える機会を作ることができた。				
	達成度 評価	A				
	評価の 根拠	年間指導計画を作成し、授業開きの際に利用することができた。校務支援システムで評価をだすことができるようになった。発表活動を1単元に1回以上行うことができた教員が80%をこえた。学年会で道徳の評価について話し合いを持ち、同一視点での評価ができるようになった。				
	学校の 実態を踏 まえた課 題	新しい学習指導要領を見据えた年間指導計画や学びのプランを作成する。校務支援システムをさらに利用していく。道徳については全員で授業を行う体制を続けていく				

2019年(平成31年)度～2022年(年)度 学校教育総合プランに沿った重点とする取組と評価

【 逗子市立逗子中学校 】

柱Ⅱ		支援の充実		4年間を見据えた取組内容		安心できる居場所づくりと絆づくりの推進	
		2019年(平成31年)度		2020年(年)度		2021年(年)度	
期 首 入 力	学校の 実態と課 題	生徒が安心できる居場所や生徒間の絆づくりがすすまず、不登校が増加する要因の一つとなっている。また、授業がわからず、取り出している授業を希望する生徒も増加傾向である。		生徒一人一人の様子をみるのにもっと時間をかけてやりたい共有のための話し合いの時間や報告を書く時間を確保したい。		0	0
	年度目 標	安心できる居場所づくりをすすめ、生徒が学習に取り組めるようにする。					
	取組計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・活力ある生活を送るために、規則正しい生活習慣を確立させる。 ・発達段階に応じた思いやりの心の育成を図る。 ・学習支援シートを作成し、教科間で連携した支援を重視する。 ・教科相談等の診断的支援体制を構築する。 ・生徒同士が互いに認め・助け合う集団づくりをおこなう。 ・すべての生徒が感謝し合う 人間関係の構築を図る。 ・いじめへの未然防止と早期発見・早期対応・早期解消に努める。 ・生徒の多面的な理解を進め、生徒の困り感の早期発見に努める。 					
期 末 入 力	実践した 内容	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じた思いやりの心の育成を図るために 評価できる行動を褒めることを行った。 ・学習支援シートを作成し、教科間で連携した支援を教育相談で実施した。 ・教科相談等の診断的支援体制を夏休みに実施した。 ・生徒同士が互いに認め・助け合う集団づくりをおこなう。 ・いじめへの未然防止のため生徒とふれあう時間を増やした。 ・生徒の多面的な理解を進め、生徒の困り感の早期発見に努める。 					
	達成度 評価	B					
	評価の 根拠	気になる生徒の情報を共有し、教科指導に役立てた。 教科相談など回数は少ないが、実施することができ生徒の反応もよかった。 学習支援シートは担任にとっても面談の資料としては有効であった。					
	学校の 実態を踏 まえた課 題	生徒一人一人の様子をみるのにもっと時間をかけてやりたい共有のための話し合いの時間や報告を書く時間を確保したい。					

2019年(平成31年)度～2022年(年)度 学校教育総合プランに沿った重点とする取組と評価

【逗子市立逗子中学校】

柱Ⅲ		学校組織の充実		4年間を見据えた取組内容		研究・研修の充実			
		2019年(平成31年)度		2020年(年)度		2021年(年)度		2022年(年)度	
期 首 入 力	学校の 実態と課 題	本校は、今年度逗子市の委託研究Ⅰに該当している。昨年度は休業中研修会への参加が少ない面が見られた。積極的に研修へ参加し、その内容を校内で広めていく必要がある。		QUテストの結果からわかることを次年度のクラス分けに使う。グランドデザインは次年度も継続して作成していく。逗子市教委委託研究の本発表のための研修を実施する。		0		0	
	↓	↓		↓		↓		↓	
	年度目 標	積極的な研修や研究への参加を実施し、内容の共有化をはかる。							
	↓	↓		↓		↓		↓	
期 末 入 力	取組計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・逗子市の委託研究の主題について研究を深める。 ・教育活動の見直しにより、展望をもちながら組織的・計画的・継続的に校内研修を計画する。 ・研修・研究会・担当者等へ積極的に参加するよう、教職員の意識を啓発する。 ・研究授業の保護者・地域への公開を積極的に実施する。 ・校内外での研修会を通して、内容の共有化を図る。 ・休業中の研修会への積極的な参加をおこなう。 							
	↓	↓		↓		↓		↓	
	実践した 内容	<ul style="list-style-type: none"> ・逗子市教育委員会委託研究中間発表会の実施 ・校内研修の充実 ・研修 研究会への積極的な参加 							
	↓	↓		↓		↓		↓	
期 末 入 力	達成度 評価	A							
	↓	↓		↓		↓		↓	
	評価の 根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・QUテストを実施して、その結果より生徒の様子を知ることができ、その読み方まで学ぶことができた。 ・学校 学年 教科のグランドデザインを作成して、評価してもらえた。 ・授業のあり方について学ぶことができた。 							
	↓	↓		↓		↓		↓	
期 末 入 力	学校の 実態を踏 まえた課 題	QUテストの結果からわかることを次年度のクラス分けに使う。グランドデザインは次年度も継続して作成していく。逗子市教委委託研究の本発表のための研修を実施する。							
	↓	↓		↓		↓		↓	